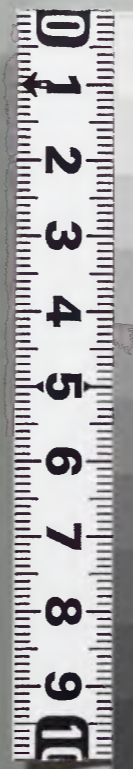


繪
 馭馬文元記
 下

內閣文庫
 和書類
 七二四
 三冊
 函架

內閣文庫	
番號	和 17244
冊數	3 (3)
函號	154 414



大坪本流駟馬大元記卷之下

草鹿目錄

草鹿濫觴の事

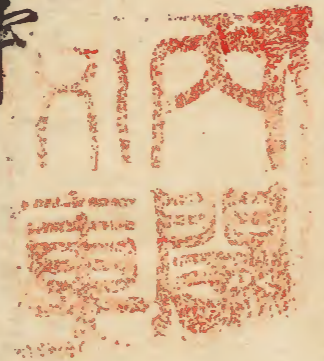
山林三口餅の事

草鹿揆貝の事

草鹿小用於弓此事

拾次乃事

矢漏篋乃事



大元記下

角つば總すべ乃の事こと

緩ゆる笠かさ此こゝ事こと

射いもも紫むらさ米まいのの事こと

乃の勝かち乃の事こと

策さく乃の事こと

麻あし振ふる乃の附つ串くわ此こゝ事こと

麻あし釣つ繩なわ此こゝ事こと

馬うま具ぐのの事こと

麻あし無な汲ひ乃の事こと

日ひ記き汲ひかか場ばのの事こと

日ひ記き汲ひ之の所ところ又また座ざやや乃の事こと附つ麻あし垣かき此こゝのの事こと

檢けん見み乃の事こと

繩なわ美み繩なわのの事こと

移うつ繩なわ余あ代しろ代しろ草くさ麻あし射いもも組くみ本もとににるる場ば乃の事こと

移うつ室むろ町まち家や代しろ代しろ草くさ麻あし射いもも組くみ本もとににるる場ば乃の事こと

場ば乃の事こと

同移^ニ總金沖代草麻射^ニ之^レ組^ニ籠^ル岩^ニ
る場^ニ乃^レ事

同移^ニ室町家沖代草麻射^ニ之^レ組^ニ籠^ル岩^ニ
下^ル場^ニ此^レ事

日記中付^ニ小^レ忍^ニあ^レ於^ル事

矢^ハ彈^ノ儀^ノ事

騎射^ニ之^レ葉^ノ事

大坪本流^ノ馭馬大元記卷之下

東武

草鹿

馭馬大元師

芥藤定易集編

草麻^ニ之^レ鎌倉右大将^ノ朝^ニ之^レ富士^ノ狩^ニ倉
と^カさん^ウた^メふ^シ川^ノ相^ノ摸^ル山^ノと^サ物^ノめ
を^シま^シふ^シ多^ク射^ル之^レ鹿^ノ儀^ノ射^ル之^レ鹿^ノ儀^ノ射^ル之^レ鹿^ノ儀^ノ
と^シ於^テ予^リ共^ニ日^ノ羽^ノ々^ノと^シ飲^ムん^テ申^ス於^テ矢^ノ
之^レあり^シ事^ト朝^ニ之^レと^シ然^ルと^シ決^スらん

ありて下河色庄司約年工友庄司京
 光電甲之郎季隆彼是山と云士と云と
 是ゆ初あり皆答く當時弓馬乃達人
 冬三浦介義隆より彼り父義の上総介
 廣常ハ勅紙移く下野國那次那の妖術
 と將して上洛し御感ふありける事と乃
 猶余功如ふあり彼等とめては初あり
 一也初約公實りと思はく彼是又人と云

され其故と作合ら此皆評定して麻小
 わるは夫毎乃麻とるもの疏と考へ弓法
 と外して打見而大概十一杖乃中此夫多
 以是某麻の法とん然も先十一杖とくハ
 止らる麻あるゆゆへよ十一杖と略して
 九杖小定め草とんく麻と作り弓換
 一とん東鑑小建久三年八月廿日三浦
 比合梶原等乃武士と云これ坪倉小お

かくは務負ありを統と坪屋の打
 うろろは弓杖を相合よあさうひて
 射する事や見へり是と葉麻此
 監觴とはま統とのやり
 山林三日餅と大山祇神と拜とる
 ずり草麻と初く真ひとる時を
 三日餅と俣へきてまらる事なり赤色
 此餅白文の餅黒を此餅なりこまは

三也一爰乃餅とりみなり其供法を
 山名命の帯と事なりを統と検見其
 設小准しくと事と勤心なりまらる
 三日喰此法式あり操倉所代乾船云の
 有君萬歩君初く将余乃節乾船云
 大友友迎お監とん屯甲乙之節事隆と若君
 此を射士として要おおうめはよを介
 踏る士とんかこうとかきしめらるは



中乃甲もどりし是故小捨見もどり麻
 に矢中なる射射は矢声とあり麻
 の物と見く日記の中と付くる事あり
 室町家ふいらては麻と生れ麻のお
 とく物りて矢あり此里ありゆ人に
 い修造乃不中なるや也矢可成なる
 少人捨見と用する事あり捨見も其
 家ありありと徒と勤る事也武田

小笠原乃騎射乃書と捨見も射
 にかんして其家と勤るいへ
 小笠原家は小笠原信濃も小笠原休
 前も同休お次郎同民部も武田乃家
 武田大膳も武田大伴もは細川大膳も
 孫久頼も白因幡も依て本加賀守入る多
 是後も忠小いありもく大伴流の門人
 あり是は友も親定易本は屯岩下

西馬場乃草麻檢見を勤ふる事有り
 弓を八張弓の内相位弓と用たり
 猶ととと室町家の末より
 とも用たり事有り
 弓と執冬春冬白五式執といふ
 相位弓にわんしてとも
 拾次を家この法あり
 事也古と書しと
 武士此軍よおむく

度どふ拾次と然る
 矢と端と萬のい
 角総を古と
 たり然れとの
 是を續是之古来
 市目是とく
 賤男

此よりそは是の極乃地之其是と兼
 廉およひ是無小用也於なり
 長小衣上石帯鹿朝行勝是等之
 行勝乃下少は小袴とくも也
 行勝とあはれ事なり秋二毛ハ本式
 たり夏毛の行勝ハ行勝と律事に用
 時冬切等に習ひあり是行勝虎豹行
 勝水豹竹豹乃行勝あり別合乃行袴と

廉乃白毛とおふ事と事々まは陰行
 勝あり老人なりふはにりろき行
 袴といなり
 策を根竹の策と別れ事なり腕貫
 此はと腕み袴くじとびをれり
 かと此結びふしと緒の末次素の子
 じとひふ事れものなり
 廉を春杖よりく作り極小習ひ



あり刺を木少く振るなり是然の串
と人蓋ひ床をさうゆくに打然串よ
せうに事なり

床約繩と赤繩と青繩とニ久乃内と
此妙も以才小月と知るへ

る具を敢て定法はき富士の巻将
の書妙と毛く此馬又何鞍おわくと
おれと此を定法形と云く是れ大將軍

家乃前近後近乃る小月於七日鶴と
用捨おれ事なり

草席お場

床然乃役人三人之内を人き切者
予れと月於事なり人き鳥帽子
素絶袴亦二人を纏よ袴計是なり
振乃男四人或人と串と拍おれ又二人
床と拍へおれなり

日記の役侍烏帽子小素袍袴と恙一末
 廣わきき持く小素袍恙々其男に文
 卷前小抄世又小素袍着る者二人引
 連静小歩日記更へ其於なり
 日記く者其可座一と其と見く座
 恒之者二人小素袍小袴着る者比乃
 杖と突二切小歩座座のい方左右一
 休魚一

検見日記乃役座一と正しやうめん面小歩
 之と其と見くる場へ馬と乗出座此少
 い方こきふる代よめ用く維いりありと峰よ小座恒との
 者少く恙々こき付検見座と其か小掛反
 其と向むか小座恒と者恙々こき野分乃座に
 掛てい沙さ覽らんありと其そのとこと云い座と
 て検見る代よめ釋しょう小か其々こき座と乗出
 掛る座と見くる野分の座と掛る座

と云て日記所乃右方田又弓降く屯を
此也其屯と云く弓を仰乗物とま
より候この射を乃面へ乗出と云り
日記不此およいりては行皆の礼と
用へ一乗返と射麻みじひて素引
と云て毎り介持と屯と云り弓を
郎と押乃射を馬場の内小屯と
捨見と云く捨見策と腰より扱て腕小

掛子射を小屯見く夫と云ひる
と静み出と也射を一毎り射る射捨
見居替りて左右乃夫而候吟味と云
○操美縄を一板小然れり紫へ用捨
わへ一室町家の書よ紫を所振る
らくは然る事なりと常人
を法英系此打更と云く一と一と一
射乃書みと云り知を遣色を云

少人少人者志く人々とていひは
 繩と小笠原武田大坪流と小用事
 予り義家公の秘事小わそり軍
 又種乃傳の由と入らざれば縄有り
 尋と若松小口傳あり

移鎌倉御代草鹿射手之組 下口

山神三口之餅

馭馬大元師

齋藤定易 主税

齋藤藤原定兼

吉八郎

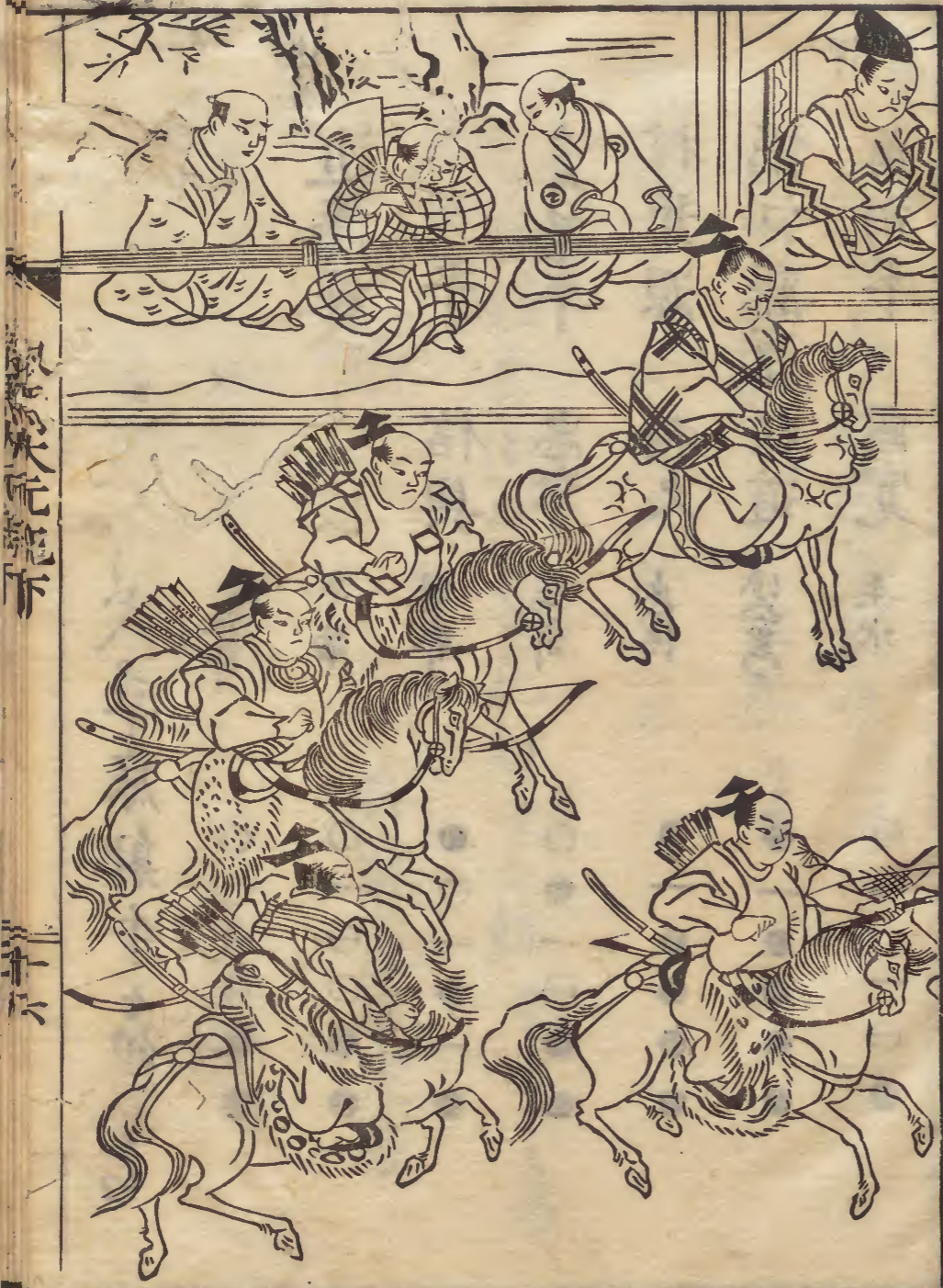
●●●○●●●

近藤藤原壽俊	半助	●●●○●●●
織田平	信興 刑部	一○●●●●●
鳥居平	忠寧 主計	○一○●●一
村井源	猶久 忠伯	●●●一●●●
堀江藤原弘道	源壽	●●●一●●●
角南平	國寛 主水	○●●一●●●

日記

飯野平恒春 彦作

享保十三戊申九月廿二日



狩野

狩野

移室町家御代草鹿射手組分口

弓太師 齋藤藤原定永 吉八師

近藤藤原壽俊 半助 ○一○●●

織田平 信興 刑部 ●○一●一●

鳥居平 忠寧 主計 ○●一○●●

村井源 猶久 忠信 ●一●●●●

堀江藤原弘道 俊高 ●一●●●●

押 角南平 國寬 主水 ○○一○●●

馭馬大元師

揆見齋藤藤原定易 主税

日記飯野 恒春 彦作

享保十三戊申歲九月廿二日

移鎌倉御代草鹿射手組 宅宿下馬場

馭馬大元師

山神三口之餅 齋藤藤原定易

弓太師 齋藤藤原定兼 吉八師 ○○○●一

近射士 居平 忠寧 主計 ○●○一●●

馭馬大元師

十一

菅原 義隣 左助

前田藤原 直主 左助

村井源 猶久 忠治

堀江藤原 弘道 源五郎

近藤藤原 壽俊 半助

日記前田藤原兼忠 源五郎

享保十三 戊申 歲十月十九日

移室町家御代草席射子之組 屯宿下馬場

弓太師 前藤藤原定兼 右八郎

近射士 鳥居平 忠寧 主計

前田藤原 直主 左助

村井源 猶久 忠治

堀江藤原 弘道 源五郎

丸菅原 義隣 左助

押 近藤藤原 壽俊 半助

檢見 前藤藤原定易 主税

馬場大元記下

日記 前田藤原兼忠 源兼忠

享保十三戊申年十月十九日

○日記中何物を奉りにしむとく多承
われ事なりおひあくしてハ勤る
き汲なり

○電岩下る湯みく室町家草蓆の打
り友系此壽後乃矢小腹く乃矢わり
満こり色の矢わりをれゆ人矢評議を

ありきれなり

弓太郎友系定兼の早矢中よりゆ
検見矢声とゆとゆとくる成出
矢而と見て弓る此れゆて其出立其
熊と林英とやきる也遊射士の早矢
とゆりゆれゆ人にゆく林英と
ゆい押乃早矢とひくも中よりゆ
予林英とゆのべりなり其林英皆

古^コ々^ゾ以^テの^ル事^ノ之^レ凡^ソ草^ノ麻^ノ小^ノ
弓^ヲ太^ノ郎^ノ押^シ近^シ射^ス士^ノ乃^モの^立所^ハ古^ク来^ニ
より^テ貴^ク歎^ク乃^モ所^ナり^ニ乃^モ時^ヲ以^テ此^ノ立^ル
所^ニ然^ルに^テ上^ノ下^ノ乃^モ立^ル所^ト々^々何^レ哉^ニ其^レ
日^乃貴^ク歎^クの^立所^ト々^々是^レ存^ス檢^ス
見^ル秘^ス英^クを^テす^ル事^ナり^ニ口^ノ傳^ヘ
草^ノ麻^ノと^テ唱^スへ^テ草^ノ麻^ノ也^ト又^モ智^ハあり^ニ
八^ノ魔^ノ的^ノ八^ノ的^ノの^智ハあり^ニ也^ト。然^ルと^テい^ハふ

さ^りて^テ唱^スる^トと^テ立^ル所^ト々^々つ^けて^テ又^モに^テ
智^ハあり^ニ事^ナり^ニ加^へり^テ其^レあり^ニと^テ弓^ヲ馬^ノ
小^ノは^テ唱^スる^ト葉^トと^テ不^レ立^ルの^ナり^ニ古^ク来^ニ
より^テ其^レ法^ヲ其^レ傳^ヘあり^ニ事^ナり^ニと^テ又^モ一^ト

享保十四巳酉年

正月吉日

江都日本橋南一町目

須原屋治右衛門藏板

